

2023年(令和5年)11月23日(木曜日)

日 報 政 経 懇 話 会 新 潟

新潟日報政経懇話会新潟

会の11月例会が22日、新潟市中央区の新潟グランドホテルで開かれ、国際水ジャーナリストでグローバルウォーター・ジャパン代表の吉村和就氏が「地球温暖化による水クライシス〜世界と新潟の水問題〜」と題して講演した。写真。国内外で水や水道に関する課題が山積しているとし、「水の重要性を認識し、水資源の確保や有効活用のための方法を考える必要がある」と述べた。

要旨は次の通り。
一、地球上の水のうち、

国際水ジャーナリスト 吉村 和就氏



水資源の重要性認識を

人が生活に使える可能性のある水は約0・8%にすぎない。近年は人口増や経済発展などで水の使用量が急激に増え、干ばつなどの異常気象が頻発している。2030年までに地球の人口の半分、約40億人が水の危機にひんするとも言われている。

の運営を民間会社が担う官民連携を取り入れている所もある。行政区域ごとだった給水区域を広げて効率化を図る方法もある。

一、下水にも多くの活用方法がある。下水中に含まれるウイルス量で感染症の流行状況が把握できるほか、使用した医薬品などを把握することで市民の健康状況も分かる。汚泥からは肥料の原料となるリンを回収できるし、処理水を農業用水に使って多くの収量を上げた例もある。

新潟日報政経懇話会新潟会の申し込みは事務局(新潟日報社ふれあい事業部内)、025(385)7144。



新潟日報政経懇話会（新潟会）11月例会

「地球温暖化による水クライシス ～世界と新潟の水問題～」

講師 グローバルウォータージャパン 吉村和就

講演要旨

第一部：地球上の水資源の現状

- ・水資源はどの位あるのか
- ・急増する世界の水需要
- ・地球温暖化と水資源の将来予測
- ・国連の動き（SDGs）
- ・日本の水資源
- ・新潟は水資源の宝庫

第二部：日本の水道が危ない

- ・世界に誇れる日本の水質管理
- ・水道事業の抱える課題
- ・水道法の改正
- ・水道事業の広域化
- ・新潟県水道広域化推進プラン
- ・新潟市の水道事業
- ・官民連携「みやぎ方式」
- ・水道行政の移管（厚労省から国土交通省へ）

第三部：新しい下水道の見方

- ・下水疫学ビジネス
- ・下水道は個人情報宝庫
- ・期待される下水ビジネスは三位一体で
- ・下水からエネルギー
- ・下水汚泥からリン回収
- ・下水処理水でアユの養殖
- ・下水処理水でサツマイモ栽培

第四部：水と健康 ～命の水は～

- ・脳力と脳内水分量は
- ・なぜ脳に水分が必要か
- ・正しい脳細胞の増やし方
- ・発見力と想像力を持つ人

以上